1000万本の大台目指す！

能勢酒造（☎072・735・2222）は、ミネラルウォーター、ソーダーなどのリターナブル瓶を強化する。高級ホテルなどで“SDGs瓶”としてエシカル消費者に訴える一方、生産体制の増強も検討、数年以内にも1000万本の大台を目指す。

高級ホテルでエシカル消費者に訴え

能勢酒造

SDGsでリターナル瓶強化

1712年に大阪府能勢町で創業。桜川の名水を仕込み水にし、酒造会社として300年の歴史を誇るが、昭和40年代にはミネラル水の製造販売に事業転換。

現在では、ノセナチュラルウォーター、ノセミネラルソーダをはじめ桜川サイダー、箕面の柚子サイダーなど多彩なドリンクを商品化。経営革新の承認、おおさか地域創造ファンドの採択なども受ける。

コロナ禍では、農家応援プロジェクトとして和泉市の山里「いずみ小川いちご農園」のいちごを使った「大阪いちごサイダー」を2020年6月に発売。今年度は5万本達成を見込んでいる。

何度も使用するリターナブル瓶は、2008年に「容器包装3R推進環境大臣賞製品部門最優秀賞」を受賞するなど、中小企業では関西トップクラスの実績を持つ。最近のSDGsへの関心が高まる中で、リターナブル瓶の攻勢をかける。

生産体制の増強も検討

高級ホテルでは、外国人の瓶ボトルの評価が高いほか、SDGsでプラから瓶への消費回帰もあり、「リターナブル瓶の価値が高まっている」と指摘。現在、200mℓ、360mℓ、1ℓで活用、関西エリア中心の販売だけに物流面でも有利という。

今後、高級ホテルやレストランへ“SDGs瓶”としてエシカル営業を推進する。一方、瓶を洗浄する新工場建設も検討、供給体制を整える。数年以内にもリターナブル瓶1000万本体制を構築、プラから瓶へ容器シフトを進める計画だ。

日本一明るい経済新聞 2022年7月号